



ひとりの男のためには生きたくない

東陽・監督作品

まんぷく

MANNON



いま最高に新しい
女 マノン。
鮮やかに愛と別れ
を語り続ける俊英
東陽一が、またひ
とり、胸にチクリ
と痛む、いとおし
い女を生んだ。



島丸せつこ
佐藤 浩市
伊佐山ひろ子
荒木 一郎
河合 絃司
根岸 正
花上 太朗
加茂さくら
河原崎良一
津川 雅彦



製作・前田香弘
原案・東陽
脚本・田中忠子
監督・東陽
撮影・川上純市
音楽・荒木 一郎
主題歌・
早稲ひさ子
作詞・東陽
作曲・荒木 一郎
演奏・早稲ひさ子
プロデュース・東陽



製作・幻燈社 配給・東宝東和株式会社

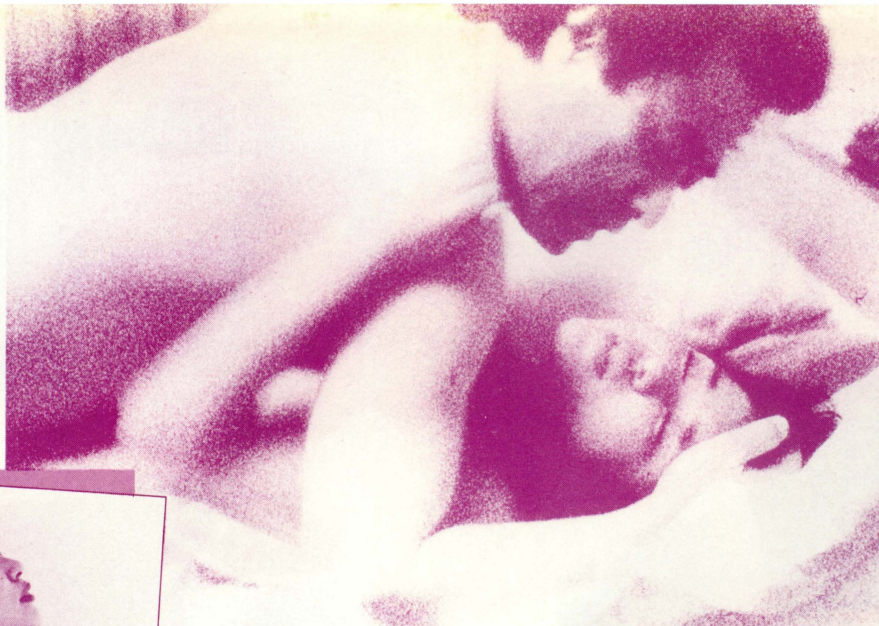
TOWA

9月下旬《鮮烈》のロードショー

伊勢丹前シネ・タウン
新宿ビレッジ2 (351)
3129

マノン

製作◎幻燈社／配給◎東宝東和株式会社



●俊英・東陽一監督が鮮やかに描く 現代の《女性像》

「もう煩づえはつかない」「四季・奈津子」そして最近作「ラブ・レター」まで、男と女の愛と別れを鮮烈に語り続ける東陽一監督の注目の話題作だ。青春映画の快作「サード」で数々の映画賞に輝き、映像作家として高い評価を受けた彼、そのみずみずしい感性がアベ・ブレヴオーの18世紀の文芸恋愛小説「マノン・レスコー」に触発された。

奔放な愛に生き、傷つきながらも次々と恋の遍歴を重ねてゆくマノン。キューブで優しく、自分を偽らないマノン。彼女の不思議な魅力に男たちは引きづられてゆく……。

東監督は今回も「四季・奈津子」と同様、撮影現場でメガフォンをとりながらセリフを変更していった。この作品のヒロインみつこのキャラクターをマノンとだぶらせてゆくためだ。そしていま、この難行を経て現代のマノンは誕生したのである。



●最高のスタッフ・キャストに、いま 時代の風が舞い上がるノ

「情婦マノン」でセシル・オーブリー、「恋のマノン」ではカトリリーヌ・ドヌーブ。永遠の恋人マノンにはその時代感覚を代表する女優が演じてきた。そして東監督は烏丸せつこを選んだ。「四季・奈津子」に続く二度目の起用だ。その期待に応えて彼女は女優としての大きなステップを踏んだといえよう。彼女をめぐる男たちに、日本映画界久々の大型新人として注目を浴びる佐藤浩市。年令とともにますます演技力と深味を増す津川雅彦。俳優復活宣言をした話題の人、荒木一郎といった異色顔合わせ。

他に人気最高「ツィ・ビート」のビートたけしがシリアスな演技を見せる。

製作は「サード」の前田勝弘。脚本には21才、現代的なフイリリングで頭角を現わす田中晶子。音楽はもちろん荒木一郎という第一線のスタッフだ。



●みつこは今日も新しい恋をひろった。

みつこは劇団研究生。同棲相手の教師、吉野ととりとめもない喧嘩の後、晴れない気分のままバイトへ出かけた。パニー・ガールの店だ。そんな彼女に興味を示す中年の男がいた。滝沢だ。店が終って、みつこは滝沢は飲み歩き、一夜をとにもする。翌朝、部屋に戻ったみつこは吉野にありのままを話す。吉野は激情のままみつこのしかかっていた。部屋を出たみつこは滝沢の会社へ電話を入れ、会う約束をする。しかし、偶然に兄・しのぶと出逢った。金をせびるときだけ彼女の前に現われるヤクザな兄だった……。

●決して昨日は振り返らない。 いまを鮮やかに生きれたら

みつこは会った滝沢は、友人の葬式に出席するため故郷へ向かうという。みつこは滝沢と同行する。葬式の間ひとり残された彼女はひとりの青年・至と知り合う。ふたりは互いにひかれ、もう動いていない遊園地で一夜を過ごす。

東京へ帰る朝、滝沢とみつこを駅で至が待っていた。不審気に相手をうかがう至と滝沢。結局、至はみつこと東京へ出て、みつこの友人、曳子の部屋に居候を決めた。



●誰とのときでも本当の気持 「あなたを愛しているから……」

みつこはパニー・ガールの仕事に戻る。滝沢もやって来た。

仕事を終え、みつこは当然のように滝沢とホテルへ向かう。至は、その現場を目撃してしまった。やがてホテルから出て来た二人の前に立つ至。完膚なきまでに至を叩きのめす滝沢に、みつこはただ鳴咽するばかりだった……。

みつこは関係をもたなくなつてからも滝沢と会っている。至にとつてそれは我慢できないことだった。大学をやめた至は、仕事をみつけ、金をつくらなければならない。そんな至の前に、ふらりと吉野が現われた……。